

- ・追加・変更箇所は**赤字**で表記。改訂日付は最新のみを記載。
- ・このメモから、ご自身の必要箇所を楽譜に転記するなど有効活用して下さい。

初版 2024/05/28

改訂 2025/04/08

【RioGrande】変更と注意事項

<曲を通じて>

- ・演奏方針：本番までに、覚えるだけでなく、咀嚼して腹落ちしたところまで仕上げる。
- ・曲想：元気よく、というよりも、綺麗に。
- ・52 小節～ テンポは**指揮の振りにしっかり合わせる。自己流でゆっくりにしない。**
- ・56 小節～ 「p」の音量にするが、優しい響きで。おっかなびつくり、探り探りはよくない。
B2 同じ音が続ける意識では、音程が下がる。**1 音 1 音推進力を持たせて歌う。**
- ・62 小節 最後、「グッ」と押す感じは good。

【全体共通】

- ・口は横ではなく**縦に縦に**。譜読みの段階から**習慣づけておかないと、癖が抜けなくなる**。
特に、「Grande」は無意識に横に広がる癖があるし、抜けがち。落ち着く音だからこそ、より強く意識して最後まで縦にしっかりと。**テンポをやや落とす代わりに、綺麗なハモで歌詞は縦にしっかり。**
- ・滑らかにメロディが流れるように歌詞を音符に入れ込む。**言葉の長さが影響してテンポ感がなくなる。**
例 2 小節 「Grande」は、「Gr」は食い気味に「an」がオンビート。
6 小節 「strand」は、「str」は食い気味に「an」がオンビート。 など
- ・**ズンチャツチャのリズムにきちんと乗って**。聴いて歌うとどんどん遅れる。自分の中にテンポ感を持って。
リズム感は、1・2・3 拍均等に正三角形で刻むのではなく、**1,4 拍目にアクセントを持たせて、ズン・チャツ・チャ、という感じ**。重い振り子が揺れるとき、折り返し点から加速し最下点の通過がズン、減速して折り返し点で折り返すまでがチャツ・チャというイメージ。1 2 3 4 5 6 全拍をカウントしていると手一杯で遅れてくる。**1 と 4 だけアクセントつける感じだと軽やかに刻める。**
- ・**軽やかなテンポ感を維持**。実は意外に早い、特に「C」セクション。きちんと維持する。
テンポがだんだん重く遅くなると強風に向かって進む感じ（「ヨッコイショ・ヨッコイショ」では台無し。）
- ・8 小節後半など、「ワン」の**8 分休符を切れよく、その後「ツッスリー」の食いつきが遅れないように**。
- ・全パート 遅れる原因は、**「8 分音符以外の長い音符の時に、8 分音符のリズムをカウントしていない」**のではないかと感じる。9 小節の「way」など 5 拍分の伸ばしや、10 小節の「o」の短めの 2

拍分の伸ばしも。その結果、ワンツツスリー の「スリー」がだんだんとずれてくる。

- ・練習の時は、指揮に合わせて体を揺らしながらリズムをとって歌ってみるとリズム感をつかみやすい。
- ・歌詞が続くところは、パート内でブレスを分散して、全体として音切れがないように。

・T1 高音域（33,51,57 小節他）は全力シャウトより、綺麗な軽快さが吉。いい意味で抜く感覚。

<個別事項>

(A)

- ・3 小節 他 way など：付点四分＋四分音符は音符の長さをキープ。
- ・4 小節他 8 分音符の Grande は「グワン d」とぶちツときらず、拍一杯使ってゆったりと「ぐうらん d」
- ・8 小節 他 Grande 縦の口で。ともすれば油断して横に広がって台無し。

(B)

- ・12 小節 他 singing など 5 拍目から（1・2・3・ワンで）入るパターンの食いつきに注意。遅れがちだが、突っ込みすぎるときもある。

(C)

- ・17 小節～は、16 小節までと同じテンポ。遅くならないようキープ。この入りが特に顕著に遅くなる。T1 の lululu がどんどん遅れる。ここは、全音符を正確に lululu と発音するよりも、振り子のアクセントで、ズンはしっかりと lu、タッタツは鼻歌の感じでもよい。とにかく軽快に。

lulu は滑らかが理想だが、リズム感が取れるまでは 8 分の 6 をきちんと刻む。遅れる癖がある。そこを通過すると、安心して次が遅れる。

- ・17-20 小節：力を抜きすぎてテンションを落とさない。ソロにバトンを渡すよう丁寧に。また、ズンチャツチャズンチャツチャを感じていないとずれる。他のパートをよく聞いて。食いつきが遅くなると遅れる。T1 u → lu に歌詞を変更。でも「ru」や「リュ」とはしない。ブレスは 18 小節と 19 小節の間。lu-u は楽しく、抜かずにリズムに乗って綺麗に、ソロにバトンタッチする感じ。慣れてきたら少し跳ねた感じ（Ln とか）で遊び心を出すのもよい。20 小節はファルセットできれいに（Lu～u）。口が狭いと音が飛ばないので、lo に近い lu で響かせる。T2B1 Pm の P は子音のみ。「Pu（ブ）」にならないように。B2 の Bm の B も「Bu（ブ）」ではない。T2B1 Pmpm pmpm pmpmpm はしっかり食いついてオンビートでしっかり刻んで。19、20 小節 B2 は、「Bm-----」と m で延ばすこと。（B-----m としない）T2B1B2 Hm・・・の口が狭い。これだと音が飛ばないので、発声練習時の Hm のように口腔奥

を広く開けて響かせる。

(D)

(E)

(F)

- ・36 小節 we'll は well (ウェル) ではなく、we will の短縮形 (ウィル) 。
- ・37 小節～ marcato (パンパンパン) と legato (滑らかに) のメリハリをつける。
- ・43 小節の 2 拍目は「A ♭」でなく「F」に下がる。(E) の 35 小節の 2 拍目からこれが出現。

(G)

(H 前半) meno mosso

- ・G までの元気よさから、「ガラッ」と雰囲気を変える。麦畑にそよ風が吹いているさわやかな風景、そこにハーモニカが聞こえてくるイメージ。
- ・52 小節 では、一音ずつ指揮をだすのでそれに合わせる (意外に遅くない) 。
- ・52 小節からのハミングは、発声練習時と同じ。
- ・53 小節の 6 拍目がバラつく。指揮をよく見てオンビートで入る。
- ・T1 強弱が p なので、頑張らなくてファルセットでよいので、むしろきれいな響きをだす。
- ・B2 文字通りベースとして、同じ音をふらつかせずに出す。同じ音が続けようとする絶対には下がる。推進力をなくさないためには、音符の最後で音を少しアゲアゲで出すイメージを持って。
- ・55 小節 全パート 音は 2 つだけど、ここから分かれてくるので、きれいに (押さないで) 正確に (少し高めに音をとる意識がよいかも) 。
- ・56 小節 B1 A→G♯は、少し(半音)下。G まで下げすぎるとマイナーな和音になる。
- ・56～58 小節 最初の sing-ing のテンポをキープ (タメとかの装飾はせず意外にシンプルに刻む) 。
ゆっくりにはなるが、その中でもズン・タッタツのリズムはきちんと刻むこと。指揮見ないとバラバラ。
T1 高音域なので大変だが、テンポ感を出すために 1 語 1 語を粒立たせて (単語を繋げない)
T2B1 ユニゾンなので一つの音で。近い音程まで来ているが、たどり着いていない音がある。特に
出だし「Singing の B」、「young の C」の音は意外に高いので注意。互によく聞いて。あと空気が抜けているような音量の下げ方にならないように。
全パート p は、ただレンジを小さくするのではない、小さくやっているフリで歌う、というイメージ。

(H 後半) Tempo I

- ・一転、元のテンポで ff で頑張る（T1 も高音だが頑張る）けど、あくまできれいにまとめ上げる。
食いつきよく、パパッとアップテンポに戻る。本当はもっと速いテンポにしたいが、まずは元のテンポで
しっかりそろえる。